

ソルフェージュスクール新聞

秋冬号

2018 年 3 月 14 日発行
編集人 吉村隆子
豊島区目白 4-23-10
(Tel) 03-3953-8517

公益財団法人
ソルフェージュスクール

ウフ&レ・テターのあしあと

月に一回、子どもたちの
明るい声が響いて一年が
経ちました!

ソルフェージュスクールが五十五周年を迎え、スクールをご存じない方々にも、ソルフェージュスクールがどんな所なのか、知っていただくことを願って始められたクラス「ウフ」(フランス語でたまごの意味)

三階のすてきなホールで、ピアノの音と
いっしょに思いっきり走ったり、音符のお
けいこをしたり、絵本の読み聞かせに夢中
になったり、ご家族そろって工作に熱中し
たりと、あつという間の一時間です。はじ
めはママから離れられなくても、音といっ
しょに体を動かしていたら、あら不思議!
お友だちとかわい声で、「まるちゃん」「し
ろちゃん」「くろちゃん」「はねちゃん」と
言いながら歩けるようになりました。月に
一回しか会わなくても、みんなお友だちで
す。「あら、一人で歩けるようになったの
ね!すごい、すごい!」と小さな一歩をみ
んなで拍手。音楽と共にそれぞれの成長が
あり、その成長をみなさんで喜ぶことがで
きる……。そんなあたたかい空気が流れて
いる「ウフ」です。



ウフ

「ウフ」の後に聴こえてくるのは、少しお
姉さんお兄さんのコーラスクラス「レ・テ
ター」(フランス語でおたまじゃくしの意味)
です。「うた」を歌うのは、良い声じゃな
いといけないとお思いの方も多いかもしれま
せん。歌うのは好きじゃないという子ども
たちも増えていると聞きます。しかし、「う
た」は作られたものではなく、楽しく、気
持ち良くなる自由なものです。まず体をほ
ぐしたら、そおーつと優しく声を出してい
きます。お友だちや先生の声をよく聴きな
がら、自分の声を溶け込ませていく…。音
をていねいに紡いでいくと、きれいなハー
モニーになります。元気なうたは元気よく、
言葉のきれいなうたを届けるように、みん
なで楽しんでいきます。

音楽は、何歳からでも楽しめる素晴ら
しいものです。その楽しみ方は、人それ
ぞれ。私たちは、みなさんが「音楽を自
分の楽しみ」にしてくれたらと願っていま
す。そして、たくさん子どもたちと、ご
家族と、音楽を通じて仲間になることが
できたらと思っています。小さな一歩で
も、みんなで歩き出せばたくさん「あ
しあと」ができます。「ウフ」や「レ・テ
ター」を知らないお友だちがいたら、教
えてあげてくださいね。そして、一緒
に「音」と遊びましょう。 江原陽子(講師)

ウフ大好き!

月に一度のウフは、娘のみならず家族み
んなが心待ちにしている一日です。

私がソルフェージュスクールのことを知っ
たのは、スクールの設計者である近代建築
の巨匠、故吉村順三先生の教え子にあたる
父が先生の調査研究をスタートさせ、私も
助手として調査に参加したことがきっかけ
でした。

故大村多喜子先生、吉村隆子先生に様々
なお話をうかがい、三先生のお人柄と哲学
に接する中で、芸術と教育に注力されてき
た情熱、信念、そして愛情に満ちた子供
たちへの眼差しに感銘を受け、京都にもこ
んなスクールがあればいいのにと羨ましく



音符釣り!!



そおーつと優しく声を出す

〈ソルフェージュスクール創立 55 周年記念事業〉

ウフ
未就学児が音で遊ぶ

&

レ・テター
子どもがコーラスを楽しむ

思ったものでした。
数年の後、思いがけず東京に嫁ぎ娘を授
かり、ほどなくして0歳からのウフクラス
開講の朗報。当時は娘以上に私の喜びの方
が大きかったと思います。
レッスンは、先生方が毎回趣向を凝らし
てご用意くださっており、娘もお友達もお
目々をきらきらさせて夢中になっていま
す。ピアノのリズムに合わせ歩く速さで音
符の違いを身体で学んだ後は、工作・読み
聞かせ・手遊び歌など、盛り沢山の一時
間が瞬く間に過ぎて行きます。
通学当初一歳八ヶ月であった娘は、先生
が手作りマイクをお持ちになって歌いな
が一人ひとりにお名前を聞いて廻ってくだ
さることが、どきどきわくわく楽しかっ
たようで、この「あなたのお名前は？」が
大のお気に入り。工作で作ったマイクやエ
アーマイクを片手に家族お友達いつでもど
でもお名前を尋ねあっていたら、いつしか
恥ずかしがらずに答えられるようになって
いました。
月に一度のレッスンではありますが、
ウフは娘に喜びと学びときっかけを、そし
て親には多くの気づきと安心感を与えてく
ださい。
順三先生の創造性に満ちた建物に抱かれ
て、大村先生の信念を引き継がれた先生方
の愛情溢れる真摯なご指導を受けられる。
この豊かな環境で音楽体験をスタートでき
たことを幸福に思います。この日々は幼い
娘の心を彩り豊かに育み、我々親子にとっ
て宝物になっていくであろうと感謝いたし
ております。
宇佐見華子(保護者)

プログラム

Pf. 石川真渚
おもいで/バイリン、ビーニー雄うし/キャサリン・ロリン

Pf. 奥田はな Pf. 奥田泰次 連弾
子供のロンド、田舎の踊り、子守歌/メトードローズより

Pf. 水落薫
メヌエット/バッハ、リオのカーニバル/ギロック

Pf. 堤真悠
no.96/バイエル、別れ/ブルクミュラー

Vn. 堀山実穂 Pf. 込山今日子先生
コンチェルト ト短調 第1楽章/ヴィヴァルディ

Rec. 伏島諒 Pf. 江原陽子先生
メヌエット/クリューガー、リゴードン/テレマン

Vn. 田中智晴 Pf. 込山今日子先生
コンチェルト イ短調 第3楽章/ヴィヴァルディ

Pf. 堀山耕太郎
即興曲 op.90-2/シューベルト

Pf. 白井友香
トルコ行進曲/モーツァルト

Vn. 吉永佳礼奈 Pf. 込山今日子先生
アレグロ/フィオッコ

Vo. 平林瑠子 Pf. 江原陽子先生
むこうむこう/三井ふたばこ/中田喜直、初恋/石川啄木/越谷達之助

Vo. 大塚萌奈 Vo. 河向來実 Pf. 江原陽子先生
眠りの精/ブラームス、All I ask of You (二重唱)/ロイド・ウェバー

Vo. 河向來実 Vo. 江原陽子先生 Pf. 込山今日子先生
私の名はミミ/ブッチーニ、奥様、どうぞお先へ (二重唱)/モーツァルト

Vo. 白井友香 平林瑠子 大塚萌奈 河向來実 江原陽子
天使と羊飼ひ (五重唱)/コダーイ

秋のおさらい会

2017年10月29日

十月二十九日、秋のおさらい会が、三階ホールで開かれました。台風の接近の中でしたが、ご家族・お友達ほか、お集まりいただきました。

今回は、ピアノ六人ヴァイオリン三人・リコーダー一人・歌四人(一人はピアノと両方)の十三人の参加でした。人数は多くはなかったのですが、とても変化に富んだ内容で楽しいプログラムとなりました。

複数の楽器を習っている生徒も比較的多く、両方とも楽しく勉強を続けているのもスクールらしさと思います。一年一年、音楽の成長が感じられました。

みんなに聴いていただくのは緊張はしますが、やはりうれしいことで、またその一生懸命な姿からは、音楽が伝わり、聴き応えがありました。

妹尾美紀子(講師)

きんちようしたおさらい会

ぼくは、おさらい会に出るのは初めてだったので、きんちようしましたが、いろいろな曲目の演奏を聞けたので、出てよかったなあと思いました。とてもむずかしい曲もありましたが、みんな上手に演奏できていたので、努力したんだあとと感動しました。次のおさらい会で、ぼくは、もう一歩成長した姿をみんなに見せたいです。

伏島諒(小4)



初めての父娘(おやこ)連弾



十月二十九日(日)雨が降る中、秋のおさらい会が三階ホールにて開かれました。

いつもは愉しむだけの会、今回は違いました。なぜなら娘との連弾でイントリーしているからです。大村先生よりピアノの連弾をやりませんかとお声をかけていただき、娘と良い思い出になるかと二つ返事で承諾させていただきました。仕事にかまけてあつという間に時間は経ち本番三週間前、先生から「練習してみよう」、はじめの間もない娘との連弾はメトードローズより「子供のロンド」。意気揚々にピアノの前に座るも、見慣れないへ音記号に戸惑い、思い通り動かない指はもつれ、散々な内容です。これはマズい・・・軽い気持ちで返事してしまったことを後悔しました。辞退の文字が脳裏をよぎるも、すでに刷り上がったプログラムには自分の名前がしっかりと記載されています。ここは父親の威厳に影響すると、困難なことへ挑戦する姿を見せることに意義があると、あらたな使命感をもち、練習のモチベーションを高めることにしました。本番二日前、ひたすら自主練習、幾度となく連弾の練習をして、何とか自信をつけ当日を迎えることができました。おさらい会での演奏は、満足な出来とは言いがたいですが、同じ年の頃に通ったこの場所で、娘と演奏できたことは、とても大切な思い出となりました。

奥田泰次(生徒父、スクールOB)

試演会

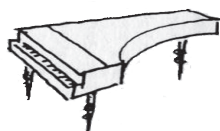
2018年3月4日 担当：糸井みちよ 講師が自主的に企画する勉強会です

先生方各々のお考えで試演会に参加され、変化に富んだ楽しいプログラムでした。

- ジョップリン/ The Entertainer 糸井みちよ・込山今日子
- ブラームス/ヴァイオリンソナタ1 番第2 楽章 妹尾美紀子・水野紀子
- バッハ/平均律 II -7 Es-dur プレリユードとフーガ 加藤恵理
- シャオフスキー/ソナティーナ (Allegro ma non troppo, Larghetto, Allegro) 古澤裕治・古澤恭子
- グリーク/ホルベアの時代から (プレリユード、ガヴオットとミュゼット、アリア) 込山今日子
- カルク=エラート/ソナタ、アパシヨナート 山崎孝子
- E. プリッジ/ 4つの小品 山崎孝子・込山今日子

研究会

2018年2月14日
担当：林徹也・水野紀子
別刷りの研究報告
をご覧ください。



クリスマスコンサート

2017年12月17日



小さいお子さんの姿がちらほらと見えるけれど大丈夫かしら…？

そんな不安がよぎりました。クリスマスコンサートの開場中のことです。今年はいらして下さった方が肩ひじはらず楽しんでいただけたようなコンサートを、ということでも企画したものの、前回のよう子どもたちに鈴を鳴らしてもらったこともないし、よく知っている曲が並んでいるわけでもありません。でも演奏がはじまってすぐにこの不安は消えました。あるお子さんの姿が目に見え込んできたからです。

その子は一曲目（バッハ／ゴルトベルク変奏曲より）がはじまったとたん、さまざまな弦楽器が目の前に並ぶ光景に目を奪われ、迫ってくるそれぞれの楽器の音を全身で受けとめているかのようにした。続くピアノ連弾（ドビュッシー／小組曲）では、先ほどの弦楽器とは全く違う響きにさらに目をこらし、全身を耳にして聴き入っていました。後半もアカペラのコーラス（クリスマスキャロル）にヴィオラのソロ（シューマン／アダジオとアレグロ・シューベルト／アヴェ・マリア）、そしてクラリネット（バズレール／フランス組曲・ハーライン／星

に願いを）と、曲によって多彩に音色の変わるさまを最後まで背筋をピンと伸ばして聴いていました。おまけに最後の曲（アンダーソン／クリスマス・フェスティバル）は今まで見てきた楽器に打楽器まで加わっての楽しいクリスマスキャロルのメドレーです。その子は全部終わった時にフーっ！というため息をついてやつと背もたれによりかかったのです。

もちろん数分で飽きてしまい、下のお部屋で遊んでいる子や、ぐっすりと夢の世界に行っていた子もありました。どれも子どもらしい姿です。でもどんな形にせよ（コンサート）の場にいられたことはどのお子さんにとっても貴重な経験になっているはず。ソルフェージュスクールのホルのように、出演者とお客様の距離が近いのは演奏者にとって実はとてもやりにくいものです。じかに聞こえる息遣いや弦のこすれる音、お互いの音や心の声を聴こうとする間（ま）、そして客席からのちよつとした物音や反応。それらをひっそくくめて一つの空間で演奏者とお客様が音楽を共有できたからこそに幸せなことはありません。このように大人が音楽を楽しんでいる姿を子どもに見せることが大切なのだと思います。下のお部屋で遊

んでいたお子さんも大人が満足しているところを見れば（コンサート）ってなんだか楽しいものなんだと心に刻み、いつか聴衆にそして自分が演奏する側になる日が来るかもしれない。春のコンサートやクリスマスコンサートを通してそんな経験を小さなお子さんにもたくさんしていただきたいと思っています。お忙しい中ご出演くださった先生方はじめ、ソルフェージュスクール室内合奏団の皆様、レ・グルヌイユの皆様、ありがとうございました。加藤恵理（講師）

楽しくアンサンブル

2017年12月23日

小学三年生以上の受講希望者の楽器に合わせて講師も含めたいくつかのグループに分かれ、アンサンブルを楽しみながら勉強する一日

おもしろかった！

私は、楽しくアンサンブルの楽器のえんそうでおもちゃのシンフォニーをがんばりました。ひいた楽器はシンバルとガラガラです。ガラガラはとってもおもしろい音が

して楽しかったです。またシンバルは、たくさんものによって音がちよつとちがうのでちよつとおもしろかったです。ピアノではみたことがない楽器がたくさんあっておもしろかったです。またこんどさんかしたいです。いしかわまな（小3）

アンサンブルの醍醐味を味わう

『楽しくアンサンブル』に参加しました。名前のおり楽しい講習会です。楽しめるからといって楽器演奏もソルフェージュも堪能：なわけがありません。むしろスキルでは劣等生的存在です。しかし、劣っているがゆえに楽しめるのだと思います。私の普段の課題は譜面を読み数えること。この曲は何拍子なのか、♭♯はいくつあるのかなどです。この段階で私の音楽レベルを察することができます。数年前「大人のための基礎音楽講座」を受講した時に突き付けられた衝撃が、数えること！始めから終わりまで数え続ける。あたりまえのような基礎が私にはありませんでした。『楽しくアンサンブル』では前もって譜面をもらい練習したうえで当日に臨みます。今回の私の練習課題はほかの人の足を引っ張らない。自分のパートだけはきちんと練習しておく。

さて当日の私はどうだったでしょう？一人練習では気付かない曲もリコーダーと合わせると素敵な曲だったと知り酔い

しれた私。数えることを忘れたのでしょ
うか。途中からアレッ！マーク合いませ
ん。また、ほかの曲(クラリネットとヴィ
オラとピアノ)では、はじめから曲にのれ
ず「待つて！どう数えるの？」と慌てる私。
つまり譜面が読めていない。だから数えら
れない。よってほかの人の足を引っ張りま
した。

このように四苦八苦しながらもほかの
楽器と合わせ曲に仕上げていくのはとて
も楽しいです。まだ参加されたことのない
方はぜひ一度ご参加ください。充実感が得
られます。 郡幸子(成人)

周りの音を聴き、 テンポや音程を感じ、 表情をつける



参加者は、リコーダー、クラリネット各
一名、ヴァイオリン五名、ヴィオラ三名、
チェロ一名、ピアノ二名、声楽五名。講師
五名。午前中は十時から二時間のレッス
ン、お昼にはホールで全員が車座になつて
それぞれ持参の弁当をいただき、午後はま
た二時間のレッスンというスケジュールで
す。イ短調、リコーダーとクラリネット
でポツケリーニとモーツアルトの「管楽三
重奏曲」、リコーダー、弦、ピアノでケラー
「五重奏曲」、声楽のアンサンブルでオッ
フェンバック「ホフマンの舟歌」、モーツァ

ルト「弦楽四重奏曲」など。最後の一時
間では全員がホールに集まってレオポル
ト・モーツアルトの「おもちゃのシンフォ
ニー」を合奏。カッコー笛、水笛、太鼓な
どおもちゃの楽器は主に声楽の人たちが
担当して皆で楽しみました。

楽器を吹いたり歌をうたったりするこ
とは一人であつても楽しいものですが、二
人以上で音を出すことでさらに広がり
生まれ、よく合ったときの喜びは大きなも
のです。その喜びを得られるためには周り
の音を聴き、テンポや音程を感じ、その上
に表情をつけられるようになることです。

「楽しくアンサンブル」や三月末に開か
れる「春のキャンプ」はその経験を積むよ
い機会となっています。古澤裕治(講師)

2018年秋季 大人ののための 基礎音楽講座

2018年11月8,15,22,29日
12月6日 全5回
各木曜日11時~12時半

楽譜を読むことが楽しく
なります！ リズムに乗
ることの心地よさが身に
つきます！

普段何気なく目にする楽譜には系統
だった理論が裏付けされています。そこを
きちんと理解し把握し、その上に自分がそ
の曲に対して感じる気持ちに乗せること
によって音楽は規律正しい中にも作曲者
と演奏者の意図が伝わる生き生きとした
ものとなります。また、ほかの人とアンサ
ンブルを楽しむ時も、読譜の基本がしっか
りした人たちが集まって合わせると、難な
く素晴らしい音楽を存分に楽しむことが
できます。

ソルフェージュスクールでは小さい時から
ソルフェージュのクラスで知らぬ間にその力
をつけているので生徒さんはいつの間にか
アンサンブルを楽しめる力を身につけてい
ます。大人のための基礎音楽講座では楽譜
に込められている理論をソルフェージュのク
ラスの中で楽しく歌いながら(あるいはリ
トミックで)理解を深め、身につけていた
だくように授業を進めています。

楽器を弾くにもまず歌うことが
肝心、といわれています。

どなたでも
ご参加をお待ちしています！

吉村隆子(理事長/講師)



四月からの新しいところみ

ソルフェージュ&ABC

西洋音楽は言葉と密接な関係を持っています。西欧の言語を学ぶ
時に、音楽をやっているとそれがとても役に立ちます。とくにソル
フェージュスクールが重要ととらえている拍、リズム、フレーズ感は
通じる言葉話すことにつながります。ソルフェージュの勉強とともに
英語も勉強できるクラスをはじめてみては、ということになり、
4月から小学校1~4年生の生徒さんを対象に私の英語の経験をも
とにソルフェージュと英語をコラボレートした楽しいクラスをはじめ
てみることにしました。この試みが音楽の上にも良い影響を及ぼす
ものとなることを期待しています。 担当 吉村隆子

〈お知らせ〉

予定(4月~8月)

- 3月31日&4月1日 春のミュージックキャンプ
- 4月29日 春のコンサート
- 7月1日 ソルフェージュスクール演奏会
- 7月16日 楽しくアンサンブル
- 7月21日 一学期授業終了日
- 8月2日~5日 夏季合宿

〈編集後記〉 ホームページを
一新し、タイムリーなスクー
ル情報はFacebookで配信し
ています。ぜひご覧ください。

